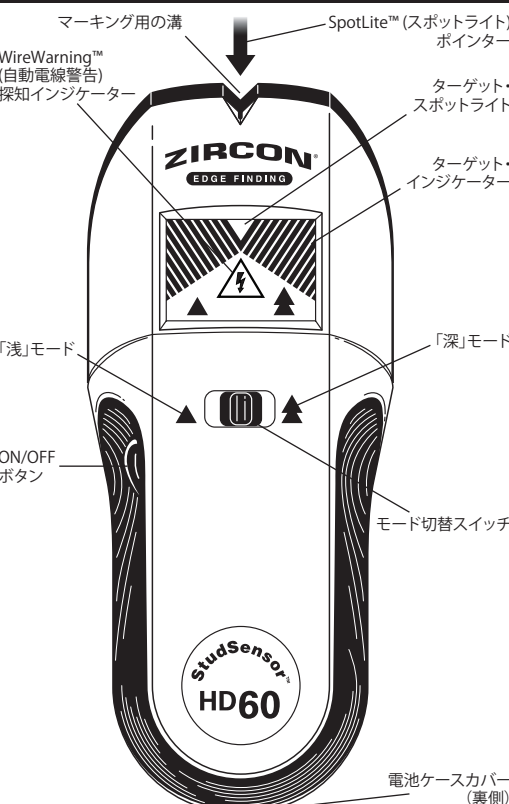


# スタッドセンサー™ HD60 梁・間柱探知器



スタッドセンサー™ HD60 には下記の2つの探知モードが搭載されています。

- 「浅(▲)」モード：木製と金属製の梁や間柱の端を最大19 mm の深さまで探知
- 「深(▲)」モード：木製と金属製の梁や間柱端を最大38 mm の深さまで探知

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は、「浅」、「深」の両モードで、通電中のAC (交流) 電線を自動的に探知してお知らせします。電圧が探知されると、電線警告サインが画面に表示されます。

## 1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押して、カバーを開けて下さい。プラス (+) とマイナス (-) の端末をケース内に印刷された図に合わせて、新しい9ボルトの角電池を挿入して下さい。電池をしっかり押し込み、カバーを閉めます。



Zircon 製品、特に液晶 (LCD) 画面があるものは、電池からの電流を大量に消費します。これらの製品が最適な状態で作動するように、新しいアルカリ乾電池をご使用下さい。

製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一問題が生じた場合は、まず電池を新品のものと交換して下さい。それでも問題が解決しない時には、最寄のZircon 代理店、またはEメール (techsupport@zircon.com) でカスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。

## 2. 操作上のヒント

最適な探知結果を得るため下記のヒントをご覧ください。

- 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時回転したりしないよう注意して下さい。
- 壁にピッタリと付け、探知表面全体をゆっくりとスライドさせて探知して下さい。この時、探知表面上で揺らしたり、傾けたり、あるいは強く押付けたりしないよう注意して下さい。
- もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにして下さい。
- 電線や配管が壁の表面にどの程度近いかによっては、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意して下さい。
- 予期しない事態を防ぐため、間柱や梁は通常約40~60 cm の間隔で設置され、その幅は38 mm 程であることを覚えておいて下さい。**これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、恐らく間柱、梁、防火帯ではありません。**

もし探知結果に一貫性が無い場合、湿度、壁内の空洞や石膏ボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿度はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待って下さい。

**⚠注意** 完全に探知器だけを頼らず、壁の図面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行って下さい。

電線の近くで作業する時は常に電源を切って下さい。

## 異なる壁面での作業

スタッドセンサー™ HD60は乾燥した室内の壁のみで使用して下さい。

注: センサーの機能する深さおよび精度は、湿気、素材の成分、壁の生地、および塗料によって影響を受け変動することがあります。

スタッドセンサー™ HD60 は、下記のようなほとんどのシート素材上で効果的に探知ができます。

- むき出しの板張りフローリング (「深」モードで)
- 木製基礎上的リノリウム (床仕上げ材の一種)
- ベニヤ板上の石膏ボード
- 壁紙が張られた壁 (乾燥している場合)
- 均一の厚さの表面加工された天井 (表面加工を傷付けないよう薄い段ボール紙の一片を天井表面に置き、その上から探知を行って下さい)
- スタッドセンサー™ HD60は、下記のような素材を通しての探知はできません。
- セラミックのフロアタイル
- カーペットやパッド
- 金属繊維が混ざった壁紙
- まだ湿っている新たに塗装された壁 (塗布してから完全に乾くまでには1週間以上かかることがあります)
- ラスとしっくい堀
- ホイルで覆われた断熱板
- ガラスまたはその他の高密度素材

## 3. モードの選択

モード切替スイッチをお好みのモードに設定します。「浅(▲)」モードは、木製または金属製の梁や間柱の探知用 (深さ19 mm まで)、「深(▲)」モード

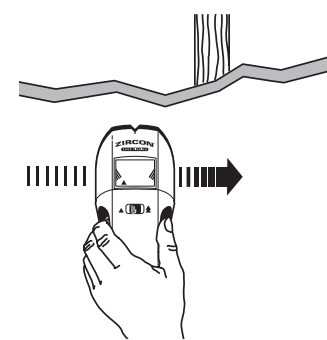
は、19 mm 以上の厚さの壁の裏側にある梁や間柱の探知用です。

ON/OFF ボタンを押さない限り、本体はオフのままです。

## 4. 梁・間柱の探知

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行って下さい。モード切替スイッチを「浅」モードに切り替えた後、壁上にピッタリと置き、ON/OFF ボタンを押します。この時、ボタンは放さず、押し続けたままにして下さい。ピーツという短い音でカリブレーション (調整) 完了を確認したら、探知を開始します。

ON/OFF ボタンを押したまま、本体を壁上でゆっくりと水平に左または右にスライドさせます。間柱に近づくに連れて、LCD画面上に外側からターゲット・インジケータのバーが現れます。

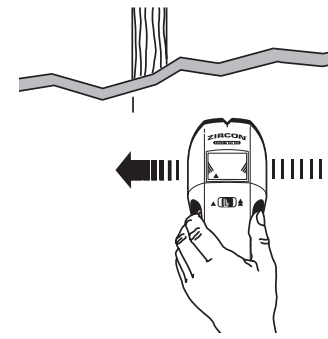


ターゲット・インジケータのバーが初めて画面上で全て表示された時、SpotLite™ (スポットライト) ポインターとターゲット・スポットライトが点灯し、安定したトーンが鳴ります。

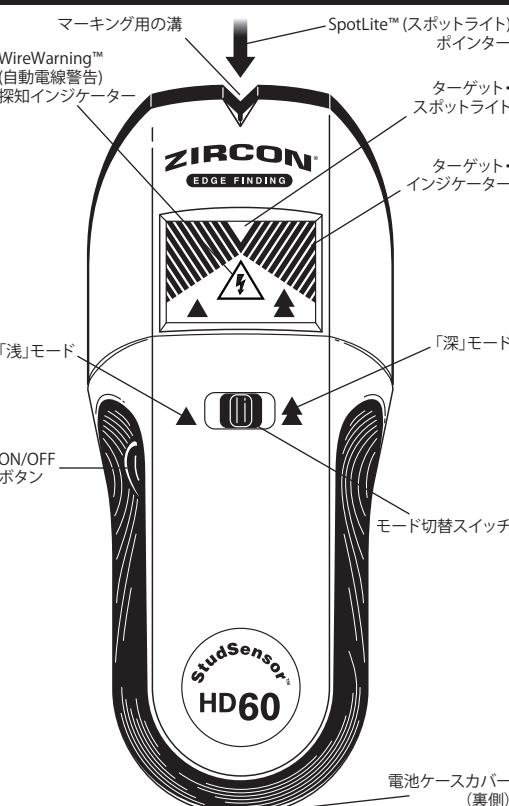
これで間柱の一端が見つかったことを意味します。マーキング用の溝を使ってこのスポットをマークして下さい。



ON/OFF ボタンを離さずに、そのままターゲット・インジケータのバーが消え始めるまでマークされたスポット上を通過しても探知を続けます。ボタンを押したままの状態、今度は本体を逆の方向にスライドさせて間柱の另一端を探知します。



# スタッドセンサー™ HD60 梁・間柱探知器



スタッドセンサー™ HD60 には下記の2つの探知モードが搭載されています。

- 「浅(▲)」モード：木製と金属製の梁や間柱の端を最大19 mm の深さまで探知
- 「深(▲)」モード：木製と金属製の梁や間柱端を最大38 mm の深さまで探知

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は、「浅」、「深」の両モードで、通電中のAC (交流) 電線を自動的に探知してお知らせします。電圧が探知されると、電線警告サインが画面に表示されます。

## 1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押して、カバーを開けて下さい。プラス (+) とマイナス (-) の端末をケース内に印刷された図に合わせて、新しい9ボルトの角電池を挿入して下さい。電池をしっかり押し込み、カバーを閉めます。



Zircon 製品、特に液晶 (LCD) 画面があるものは、電池からの電流を大量に消費します。これらの製品が最適な状態で作動するように、新しいアルカリ乾電池をご使用下さい。

製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一問題が生じた場合は、まず電池を新品のものと交換して下さい。それでも問題が解決しない時には、最寄のZircon 代理店、またはEメール (techsupport@zircon.com) でカスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。

## 2. 操作上のヒント

最適な探知結果を得るため下記のヒントをご覧ください。

- 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時回転したりしないよう注意して下さい。
- 壁にピッタリと付け、探知表面全体をゆっくりとスライドさせて探知して下さい。この時、探知表面上で揺らしたり、傾けたり、あるいは強く押付けたりしないよう注意して下さい。
- もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにして下さい。
- 電線や配管が壁の表面にどの程度近いかによっては、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意して下さい。
- 予期しない事態を防ぐため、間柱や梁は通常約40~60 cm の間隔で設置され、その幅は38 mm 程であることを覚えておいて下さい。**これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、恐らく間柱、梁、防火帯ではありません。**

もし探知結果に一貫性が無い場合、湿度、壁内の空洞や石膏ボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿度はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待って下さい。

**⚠注意** 完全に探知器だけを頼らず、壁の図面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行って下さい。

電線の近くで作業する時は常に電源を切って下さい。

## 異なる壁面での作業

スタッドセンサー™ HD60は乾燥した室内の壁のみで使用して下さい。

注: センサーの機能する深さおよび精度は、湿気、素材の成分、壁の生地、および塗料によって影響を受け変動することがあります。

スタッドセンサー™ HD60 は、下記のようなほとんどのシート素材上で効果的に探知ができます。

- むき出しの板張りフローリング (「深」モードで)
- 木製基礎上的リノリウム (床仕上げ材の一種)
- ベニヤ板上の石膏ボード
- 壁紙が張られた壁 (乾燥している場合)
- 均一の厚さの表面加工された天井 (表面加工を傷付けないよう薄い段ボール紙の一片を天井表面に置き、その上から探知を行って下さい)
- スタッドセンサー™ HD60は、下記のような素材を通しての探知はできません。
- セラミックのフロアタイル
- カーペットやパッド
- 金属繊維が混ざった壁紙
- まだ湿っている新たに塗装された壁 (塗布してから完全に乾くまでには1週間以上かかることがあります)
- ラスとしっくい堀
- ホイルで覆われた断熱板
- ガラスまたはその他の高密度素材

## 3. モードの選択

モード切替スイッチをお好みのモードに設定します。「浅(▲)」モードは、木製または金属製の梁や間柱の探知用 (深さ19 mm まで)、「深(▲)」モード

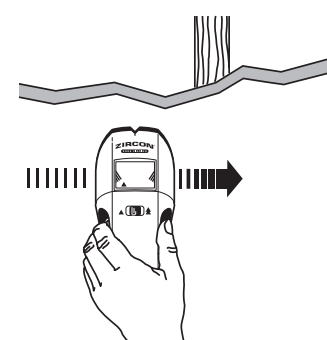
は、19 mm 以上の厚さの壁の裏側にある梁や間柱の探知用です。

ON/OFF ボタンを押さない限り、本体はオフのままです。

## 4. 梁・間柱の探知

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行って下さい。モード切替スイッチを「浅」モードに切り替えた後、壁上にピッタリと置き、ON/OFF ボタンを押します。この時、ボタンは放さず、押し続けたままにして下さい。ピーツという短い音でカリブレーション (調整) 完了を確認したら、探知を開始します。

ON/OFF ボタンを押したまま、本体を壁上でゆっくりと水平に左または右にスライドさせます。間柱に近づくに連れて、LCD画面上に外側からターゲット・インジケータのバーが現れます。

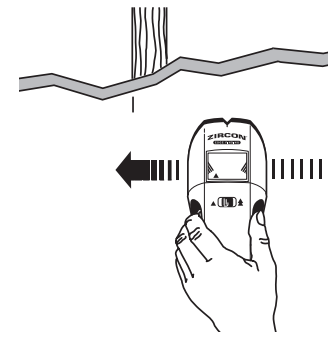


ターゲット・インジケータのバーが初めて画面上で全て表示された時、SpotLite™ (スポットライト) ポインターとターゲット・スポットライトが点灯し、安定したトーンが鳴ります。

これで間柱の一端が見つかったことを意味します。マーキング用の溝を使ってこのスポットをマークして下さい。

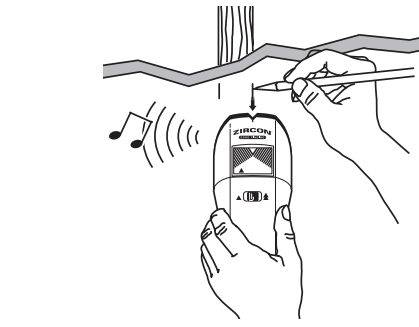


ON/OFF ボタンを離さずに、そのままターゲット・インジケータのバーが消え始めるまでマークされたスポット上を通過しても探知を続けます。ボタンを押したままの状態、今度は本体を逆の方向にスライドさせて間柱の另一端を探知します。



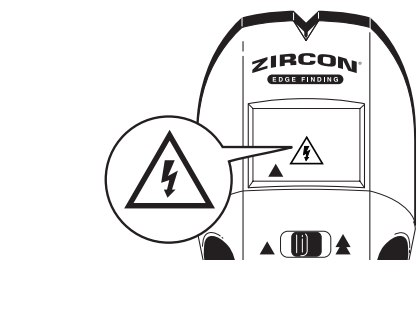


前回同様にして間柱のもう一端を探知し、この2番目のスポットをマークします。間柱の中心はこの2つのマークの真ん中です。

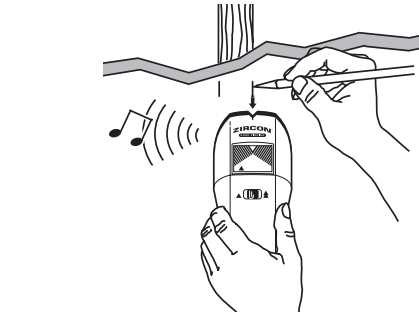


### 5. WIREWARNING™ (自動電線警告) 探知機能

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は「浅(▲)・「深(▲)」の両モード作動中常に機能しています。通電中のAC (交流) 電圧が探知されると、WireWarning™ (自動電線警告) 探知インジケーターが画面上に表示されます。探知が通電中の電線上で開始された場合はWireWarning™ (自動電線警告) 探知インジケーターが継続的に点滅します。このような状況下や、通電中電線が存在する場合は、充分注意をして下さい。

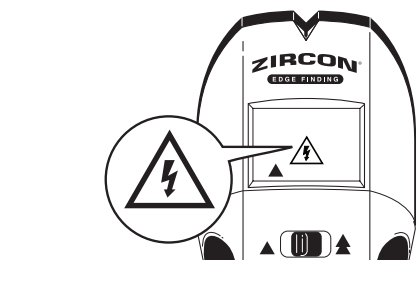


前回同様にして間柱のもう一端を探知し、この2番目のスポットをマークします。間柱の中心はこの2つのマークの真ん中です。



### 5. WIREWARNING™ (自動電線警告) 探知機能

WireWarning™ (自動電線警告) 探知機能は「浅(▲)・「深(▲)」の両モード作動中常に機能しています。通電中のAC (交流) 電圧が探知されると、WireWarning™ (自動電線警告) 探知インジケーターが画面上に表示されます。探知が通電中の電線上で開始された場合はWireWarning™ (自動電線警告) 探知インジケーターが継続的に点滅します。このような状況下や、通電中電線が存在する場合は、充分注意をして下さい。






**⚠ 注意** 壁内に湿気がある場合、探知表面から電線が5 cm 以上離れている場合、または電線がプラスチック製導管、合板壁の裏側、金属製の壁面カバーなどの中にある場合、電場探知機器が通電中の電線を探知できないことがあります。

**⚠ 警告** 憶測だけで壁内に通電中の電線がない、と判断しないで下さい。壁内に通電中の電線がある場合は、危険な行動を取らないで下さい。穴あけを行う前に、常に電源、ガス、および水道をオフにして下さい。これらの指示に従わない場合、感電、火災、および/もしくは、重傷または物的損害が生じることがあります。

#### 6. 役に立つヒント (セクション2の「操作上のヒント」も参照して下さい)

状況	考えられる原因	解決方法
ターゲット・インジケーターのバーが点滅し、継続してピーツという短い音が鳴る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁の密度が濃い部分、または間柱の上で探知が開始された。</li> <li>本体が壁にピッタリ置かれていない。</li> <li>本体が探知中に傾いたか、持ち上げられた。(こうした要因はすべて適切な本体自動調整に影響を与えます。)</li> <li>探知表面の密度が濃すぎるか、湿気が多すぎて本体が正常に機能しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体をオフにして、7～8 cm 動かし、ON/OFF ボタンを押して再起動して下さい。</li> <li>粗い壁面上では、薄い段ボール紙の一片を壁の上に置いて、その上から探知すると本体をよりスムーズにスライドさせることができます。</li> <li>本体自動調整中と探知中は、少なくとも 15 cm ほど手を本体から離して下さい。親指と人差し指は、ハンドルグリップより高くならないように保持して下さい。調整後は指を動かさないように注意して下さい。</li> <li>常に本体を探知しようとする間柱に対して平行(縦方向)に保持し、垂直に動かして下さい。</li> <li>ごく最近テープが貼られた壁や、塗装された壁、または壁紙が張られた壁上で本体を使用する場合は、壁面が乾くまで待ってから再度探知を行って下さい。</li> </ul>
「浅(▲)」モードで間柱の探知ができない。画面上中央 (内側) のターゲット・インジケーターのバーが「浅(▲)」モードでオンにならない、または点滅しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁が特に厚いか、または密度が濃い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「深(▲)」モードに切り替えて探知を行って下さい。</li> <li>中央に一番近いターゲット・インジケーターのバーを間柱の端部として解釈します。</li> </ul>
「浅(▲)」モードのサインがオンなのを確認後探知をしても本体が何もしない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体が壁にピッタリ置かれていない可能性がある。</li> <li>「深(▲)」モードの場合、間柱上で調整が行われた可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体をしっかり保持して、裏側にある2つのベルクロ (黒いオスメスのテープ) が壁と接触するようにします。</li> <li>本体を別の場所で再度自動調整し、壁面を再探知して下さい。</li> </ul>
「深(▲)」モードで作業していて間柱が探知できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>間柱上で自動調整が行われた可能性がある。(「深」モードは感度が「浅」モードの二倍あるため、このエラー状態は「深」モードでは無効化されています。)</li> <li>本体を壁に向けてテレビのリモコンのように持っている可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体を7～8 cm 動かして再度自動調整して下さい。</li> <li>本体をしっかり保持して、裏側にある2つのベルクロが壁と接触するようにします。</li> </ul>
間柱以外の他の物体を探知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気配線と金属・プラスチック管が壁の近くにあるか、壁の裏側に接触している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の間柱が両側に 30、40、または 60 cm 間隔にあるかどうか、あるいは同じ間柱が最初の探知をしたエリアのすぐ上またはすぐ下のいくつかの場所にあるかどうかをチェックして下さい。</li> </ul>
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。</li> <li>電線が通電していない可能性がある。</li> <li>表面から 5 cm 以上深い電線は探知されないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベニヤ板、石膏ボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をして下さい。</li> <li>スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際には必ずそれをオンにしておいて下さい。ただし、電線の近くで作業するときはオフにして下さい。</li> </ul> <p><b>電線の近くで切断、釘打ち、または穴開けの作業をするときには常に電源を切って下さい。</b></p>
電圧探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される (AC のみ)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電圧探知は石膏ボード壁上では、実際の電線の各側から最大 30 cm まで広がることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探知を狭めるには、電線が探知された箇所の端部で本体の電源をオンオフして、再度探知を行って下さい。</li> </ul> <p><b>電線の近くで切断、釘打ち、または穴開けの作業をするときには常に電源を切って下さい。</b></p>



DeepScan、ディーブスキャン、SpotLite、スポットライト、StudSensor、スタッドセンサー、WireWarning、および Zircon は Zircon Corporation の登録商標または商標です。

<b>最新版の取扱説明書、または製品に関する詳細は、当社ホームページ (www.ZirconInternational.com) をご覧下さい。</b>	<b>ZIRCON</b>
<p><b>限定一年間保証</b></p> <p>Zircon Corporation (以下「Zircon」とする) は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に欠陥が確認された製品は、購入日を証明する書類 (日付け付きのレント、または領収書) と共に、製品をお買い上げになった代理店・店舗までご持参下さい。代理店の判断により代替させていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適當な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらずその他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらずその他のいかなる表現や主張も、Zircon を拘束したり義務づけることはないものとします。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。</p> <p>本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的損倍賠償、あるいは間接的損害賠償については、いかなる場合にも Zircon が責任を負うことはないものとします。</p>	<p><b>カスタマーサービス</b></p> <p>製品に関する詳しい情報やお問い合わせは、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法で直接 Zircon Corporation 本社までご連絡下さい。</p> <p>ホームページ: www.ZirconInternational.com Eメール: info@zircon.com   techsupport@zircon.com TEL: +1 (408) 963-4550 FAX: +1 (408) 963-4597</p> <p> ZirconCorporation  ZirconTV  ZirconTools   ZirconToolPro  ZirconTools</p> <p>© 2016 Zircon Corporation • P/N 67435 • Rev A 04/16</p>

### 6. 役に立つヒント (セクション2の「操作上のヒント」も参照して下さい)

状況	考えられる原因	解決方法
ターゲット・インジケーターのバーが点滅し、継続してピーツという短い音が鳴る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁の密度が濃い部分、または間柱の上で探知が開始された。</li> <li>本体が壁にピッタリ置かれていない。</li> <li>本体が探知中に傾いたか、持ち上げられた。(こうした要因はすべて適切な本体自動調整に影響を与えます。)</li> <li>探知表面の密度が濃すぎるか、湿気が多すぎて本体が正常に機能しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体をオフにして、7～8 cm 動かし、ON/OFF ボタンを押して再起動して下さい。</li> <li>粗い壁面上では、薄い段ボール紙の一片を壁の上に置いて、その上から探知すると本体をよりスムーズにスライドさせることができます。</li> <li>本体自動調整中と探知中は、少なくとも 15 cm ほど手を本体から離して下さい。親指と人差し指は、ハンドルグリップより高くならないように保持して下さい。調整後は指を動かさないように注意して下さい。</li> <li>常に本体を探知しようとする間柱に対して平行(縦方向)に保持し、垂直に動かして下さい。</li> <li>ごく最近テープが貼られた壁や、塗装された壁、または壁紙が張られた壁上で本体を使用する場合は、壁面が乾くまで待ってから再度探知を行って下さい。</li> </ul>
「浅(▲)」モードで間柱の探知ができない。画面上中央 (内側) のターゲット・インジケーターのバーが「浅(▲)」モードでオンにならない、または点滅しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁が特に厚いか、または密度が濃い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「深(▲)」モードに切り替えて探知を行って下さい。</li> <li>中央に一番近いターゲット・インジケーターのバーを間柱の端部として解釈します。</li> </ul>
「浅(▲)」モードのサインがオンなのを確認後探知をしても本体が何もしない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体が壁にピッタリ置かれていない可能性がある。</li> <li>「深(▲)」モードの場合、間柱上で調整が行われた可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体をしっかり保持して、裏側にある2つのベルクロ (黒いオスメスのテープ) が壁と接触するようにします。</li> <li>本体を別の場所で再度自動調整し、壁面を再探知して下さい。</li> </ul>
「深(▲)」モードで作業していて間柱が探知できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>間柱上で自動調整が行われた可能性がある。(「深」モードは感度が「浅」モードの二倍あるため、このエラー状態は「深」モードでは無効化されています。)</li> <li>本体を壁に向けてテレビのリモコンのように持っている可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本体を7～8 cm 動かして再度自動調整して下さい。</li> <li>本体をしっかり保持して、裏側にある2つのベルクロが壁と接触するようにします。</li> </ul>
間柱以外の他の物体を探知する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気配線と金属・プラスチック管が壁の近くにあるか、壁の裏側に接触している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の間柱が両側に 30、40、または 60 cm 間隔にあるかどうか、あるいは同じ間柱が最初の探知をしたエリアのすぐ上またはすぐ下のいくつかの場所にあるかどうかをチェックして下さい。</li> </ul>
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。</li> <li>電線が通電していない可能性がある。</li> <li>表面から 5 cm 以上深い電線は探知されないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベニヤ板、石膏ボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をして下さい。</li> <li>スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際には必ずそれをオンにしておいて下さい。ただし、電線の近くで作業するときはオフにして下さい。</li> </ul> <p><b>電線の近くで切断、釘打ち、または穴開けの作業をするときには常に電源を切って下さい。</b></p>
電圧探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される (AC のみ)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電圧探知は石膏ボード壁上では、実際の電線の各側から最大 30 cm まで広がることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探知を狭めるには、電線が探知された箇所の端部で本体の電源をオンオフして、再度探知を行って下さい。</li> </ul> <p><b>電線の近くで切断、釘打ち、または穴開けの作業をするときには常に電源を切って下さい。</b></p>

DeepScan、ディーブスキャン、SpotLite、スポットライト、StudSensor、スタッドセンサー、WireWarning、および Zircon は Zircon Corporation の登録商標または商標です。

<b>最新版の取扱説明書、または製品に関する詳細は、当社ホームページ (www.ZirconInternational.com) をご覧下さい。</b>	<b>ZIRCON</b>
<p><b>限定一年間保証</b></p> <p>Zircon Corporation (以下「Zircon」とする) は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に欠陥が確認された製品は、購入日を証明する書類 (日付け付きのレント、または領収書) と共に、製品をお買い上げになった代理店・店舗までご持参下さい。代理店の判断により代替させていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適當な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらずその他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらずその他のいかなる表現や主張も、Zircon を拘束したり義務づけることはないものとします。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。</p> <p>本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的損倍賠償、あるいは間接的損害賠償については、いかなる場合にも Zircon が責任を負うことはないものとします。</p>	<p><b>カスタマーサービス</b></p> <p>製品に関する詳しい情報やお問い合わせは、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法で直接 Zircon Corporation 本社までご連絡下さい。</p> <p>ホームページ: www.ZirconInternational.com Eメール: info@zircon.com   techsupport@zircon.com TEL: +1 (408) 963-4550 FAX: +1 (408) 963-4597</p> <p> ZirconCorporation  ZirconTV  ZirconTools   ZirconToolPro  ZirconTools</p> <p>© 2016 Zircon Corporation • P/N 67435 • Rev A 04/16</p>